

## “还”和“再”的比较研究

张 轶 欧

( 関西大学・非 )

副詞“还”と“再”はともに行為の繰り返しを表す。本稿はこのことを中心に論じながら、いままでの説と異なり、以下のような結論を導き出した。“还”の特徴は“求同”にあり、即ちそれぞれのことごとに含まれている時間、場所、動作、方式などの要素がすべて一致していることが求められている。語用論的には、行為の発生は動作主体の意志によって行われているのであり、主観的な性質を持っている。一方、“再”の特徴は“存異”にあり、動作の一致だけを求めて、ほかの要素はもとめられていない。語用論的には、行為の発生は必ずしも動作主体の意志によって行われているのではなく、外部によって発生する場合もあり、客観的な性質を持っている。